

復帰 49 年目の内実を問うアピール

平和行進は 1978 年に歩みはじめました。それは復帰 5 年を経てもなお巨大な米軍基地は居座り続け、そこから派生する事件や事故、爆音、演習などによる県民への被害が日常的に繰り返されてきました。

私たちは歩くことにより、復帰の内実を問い、県内外に、そして国際世論に、現状を訴えると同時に、米軍基地撤去の解決を図るための取り組みとして進めてきました。

一方で、復帰とともに、自衛隊が配備されはじめました。沖縄戦で「軍命」による強制的な集団死、いわゆる集団自決や住民虐殺、避難壕からの住民追い出しなど、軍隊は住民を守らないという沖縄戦の教訓からあらゆる軍隊と戦争策動を拒否してきた県民にとって、自衛隊の配備は戦争への道、いつか来た道への逆戻りでしかありません。

49 年を経た現状は、「変わらぬ基地の島」と形容された沖縄は、日米軍事一体赤によるさらなる米軍と自衛隊の増強となってあらわれています。

コロナ渦の中で、残念ながら昨年同様、第 44 回 5・15 平和行進と平和と暮らしを守る県民大会は「中止」を余儀なくされました。

復帰 49 年目の 5 月 15 日、私たちは規模の制限とコロナ対策を踏まえ、在沖米軍司令部前に結集しました。

1. 普天間基地の閉鎖・返還を早期に実現させよう。
2. 辺野古新基地建設を断固撤回させよう。
3. 普天間基地のオスプレイを撤去させ、嘉手納基地への新たな配備計画に反対しよう。
4. 高江オスプレイパッドを撤去させ、世界自然遺産に登録されるやんばるの豊かな、いのちの森を守ろう。
5. 石垣島、宮古島への自衛隊ミサイル部隊配備を撤回させ、南西諸島の軍事基地化に反対しよう。
6. 軍事的解決はありません。対話による人間の安全保障、アジア非核化地帯構想など平和外交を推進しよう。
7. 集団自決における「軍命」削除など、教科書問題にみられる沖縄戦の改ざんによる歴史わい曲、皇国史観・皇民化政策を許さず、憲法に示される人権の尊重を広めよう。
8. 安倍政権、菅政権と続く自公政権による改憲を断固阻止し、戦争放棄、主権在民、基本的人権の尊重の平和憲法を守ろう。

復帰 50 年の来年 2022 年は、平和行進が県民とともに開催できること、また全国から参加いただけることに希望を託し、私たちは 2021 年の 5・15 平和行進の課題とした以上の解決に向けて決意をあらたにします。

2021 年 5 月 15 日

復帰 49 年目の内実を問うアピール行動／5・15 平和行進実行委員会